



1. 韓国から TF コイル用ダミー導体が到着

日本が分担する ITER TF コイルの製作にあたり、中国および韓国が調達を分担する超伝導導体の支給を受けることになっています。今回、韓国が製作し TF コイルの試作に用いる銅素線を用いた長さ 760 m のダミー導体が、日本に輸送されました。

このダミー導体のジャケッティング（導体化）はイタリアの工場にて実施され、韓国・釜山港を經由して、7月17日深夜に北九州港に陸揚げ、7月19日早朝に北九州市内の倉庫まで陸送されました（図1）。今後、国内にて本ダミー導体を用いた TF コイルの製作装置検証や試作を行う予定です。

2. ITER 実機トロイダル磁場 (TF) コイルおよび構造物の契約締結

原子力機構は、ITER トロイダル磁場 (TF) コイルおよび TF コイル構造物の第1号機を製作する2件の契約の締結に向けて、契約の進捗を進めてきました。この度、8月16日に「TFコイルの製作」については三菱重工株式会社と、「TFコイル構造物の製作」についてはイーエナジー株式会社と契約を締結しました。これにより、実機の TF コイルおよび構造物の製作に着手しました。

3. 第9回核融合エネルギー連合講演会での ITER・BA の展示ブース出展、ITER 職員募集説明会の実施

6月28、29日に神戸国際会議場で開催された第9回核融合エネルギー連合講演会の展示エリアにおいて来訪者に核融合、ITER・BA などに関する資料を配布し、ITER 計画について説明するとともに、ITER 機構職員募集および登録の案内を行いました。



図1 7月19日早朝に北九州港（ひびきコンテナターミナル）から倉庫まで陸送されるダミー導体。

ブースには、3Dプラズマディスプレイによる JT-60 解体 3D 映像、ITER および JT-60SA 模型（100分の1スケール）、核融合関連施設の写真集などを展示し、多くの学会参加者に興味を持ってもらうことができました。また、学会参加者には学生も多く、熱心に説明を聞き、パンフレットを手に取る姿が見られました。（図2）

また、8月22日には、東京新橋において第53回 ITER 職員募集説明会を ITER 機構に採用が決まった日本人をゲストとしてお招きし、ITER 職員募集に応募する際に参考となる採用試験の体験談などを語っていただきました。（図3）

これらの詳細につきましては ITER ウェブサイト (<http://www.naka.jaea.go.jp/>) の「ITER 機構職員募集説明会について」をご覧ください。

（日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門）



図2 第9回核融合エネルギー連合講演会における ITER・BA 展示ブースの様子。



図3 第53回 ITER 職員募集説明会（東京 新橋）の様子。